

特集

2022年12月11日 近畿支部会報告

玉澤 春史（京都大学/京都市立芸術大学）、
 古屋 昌美（枚方市野外活動センター／向日市天文館／さじアストロパーク）、
 小高大輔（大阪市立新北島小学校）、和田浩一（星のソムリエ京都）

1. はじめに

本報告は、2022年12月11日（日）に行われたオンライン近畿支部会の報告である。当日は7件の講演があり、参加者は30人程であった。

2. 企画・準備

近畿支部会では2022年年会を担当しており、今回の支部会は開催後最初の支部会会合となった。落ち着いてきたもののコロナ禍での会合に万全とはいえないこと、また支部委員メンバーが改選されてから最初ということもあり、今回も引き続きオンラインでの開催となった。また、近畿支部では毎回テーマを設定していたが、今回はあえて特定のテーマを設定せず行うこととした。

Zoomに加えてWebブラウザにおける議論ツールであるsli.doを利用した。

3. 当日のプログラム

以下、当日のプログラムである。

*印は本号に報告原稿掲載のもの、無印のものは既に別に公開されているか、今後業績として公開予定のものである。

11:00-11:15 世話人より挨拶、諸注意

【午前の部（座長：小高）】

11:15-11:45 「ばねのおもちゃを使ったケプラーの第3法則理解のための教材開発」*
 磯合竜弥（和歌山大学）

11:45-12:15 「教材への適用を念頭に置いた宇宙災害への人文・社会科学研究のサーベイ」*
 玉澤春史（京都大学/京都市立芸術大学）

12:15-13:30 休憩

【午後前半の部（座長：和田）】

13:30-14:00 「2022年9月に起こった火星のダストストームについて」*

安達誠（月惑星研究会）

14:00-14:30 *「日の入り写真から子どもが考えること」

小高大輔（大阪市立新北島小学校）

14:30-15:00 「TALCを分析視角とした公開天文台の現状をめぐる予備的考察」

澤田幸輝（和歌山大学）他

15:00-15:15 休憩

【午後後半の部（座長：玉澤）】

15:15-15:35 「冬の絵本の読み聞かせー絵本「冬の宇宙（そら）への旅ーオリオン座とその周辺の天体ー」を用いて」*

松本榮次（佛教大学）

15:35-16:05 「歪められたプロトマイオス像～ガリレオへの2つの疑惑～」

加藤賢一（星学館）

16:05-16:35 「IAU 学校天文の日：2022年秋分の交流会中心にこれまでの取り組みと今後の展望」*

富田晃彦（和歌山大学）

16:35-16:50 休憩

【16:50-18:00 ディスカッション】

4. ディスカッション

当日の内容と議論について、下記にまとめて報告する。

当日の議論としては主として今後の近畿支部会についてであった。まず、開催形式に関しては対面・オンラインそれぞれに利点・欠点があり、近畿支部会としては年二回の開催が続いているので、それぞれ一回ずつ実施するのがバランスがよいのでは、という意見があった。これを受けて次回の近畿支部会では主として対面開催を念頭に準備することとなった。

また、近畿支部会で扱ってほしいテーマについての議論があった。特に近畿支部会ではここ最近では今回のようなテーマ設定がない場合が例外的であり、近畿支部会ならではの意味エッジのきいたテーマ設定を行うことが多い。次回以降、テーマではどのようなものが考えられるか参加者に意見を募った。特に実践的な者に対する興味関心の延長として、学習指導要領における「探究」に関する興味が挙げられた。また、昨今の教育学部における天文教育研究の環境激変に関しても指

摘がなされた。さらに、これらの内容は天文分野だけでなく、例えば地学教育にもつながる話であり、たとえば他学会との共催支部会などの検討も提案された。支部会終了後の情報交換会でも活発な議論が展開された。

5. おわりに

特に後半の全体議論での内容はその後支部委員などを中心に検討を進めている段階である。近年のオンライン開催のみの状況からハイブリッドも含めた対面開催への回帰でも、支部会で何を扱うかの問題は依然として考える課題である。本格的な対面開催が予想される次回へ向けて、事前準備をしつつも問題意識を会員全体で共有できる方策を考えるのが支部委員としてのもう一つの課題と考える。

玉澤春史

* * * * *